

千葉県感染症発生動向調査情報

2013年 第22週 (5/27-6/2) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	22週	21週	20週	19週
小児科	18	18	17	18
眼科	5	4	5	4
インフルエンザ*	28	27	27	28
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉県				千葉県	
		注意報	5/27-6/2	5/20-5/26	5/13-5/19		5/6-5/12
			22週	21週	20週		19週
小児科	RSウイルス感染症		0	0	0	1	7
	咽頭結膜熱	○	3	2	2	2	91
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		41	35	58	56	398
	感染性胃腸炎	↓	153	168	146	128	995
	水痘		30	14	17	23	205
	手足口病	○	6	4	0	1	27
	伝染性紅斑		1	0	0	1	10
	突発性発しん		15	13	22	14	85
	百日咳		0	0	0	1	2
	ヘルパンギーナ		2	3	0	0	14
	流行性耳下腺炎		3	3	1	4	36
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		12	21	13	11	166
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	3
	流行性角結膜炎		0	1	2	1	27
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		1	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	0
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ○:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(21件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	80歳代	病原体等の検出等	梅毒	女性	20歳代	血清抗体の検出
結核	女性	10歳未満	IGRA検査等	風しん	男性	10歳代	臨床診断
結核	女性	10歳未満	IGRA検査等	風しん	男性	20歳代	血清IgM抗体の検出
結核	女性	40歳代	IGRA検査	風しん	男性	20歳代	病原体遺伝子の検出等
結核	女性	50歳代	IGRA検査等	風しん	男性	20歳代	病原体遺伝子の検出等
レジオネラ症	男性	60歳代	病原体抗原の検出	風しん	男性	20歳代	血清IgM抗体の検出
アメーバ赤痢	男性	30歳代	病原体の検出	風しん	男性	20歳代	病原体遺伝子の検出
後天性免疫不全症候群	男性	50歳代	血清抗体の検出	風しん	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出等
侵襲性肺炎球菌感染症	女性	10歳未満	病原体の検出	風しん	男性	50歳代	病原体遺伝子の検出
梅毒	男性	30歳代	血清抗体の検出	風しん	女性	20歳代	臨床診断
梅毒	男性	50歳代	血清抗体の検出	-	-	-	-

・結核5件(90)、レジオネラ症1件(3)、アメーバ赤痢1件(5)、後天性免疫不全症候群1件(6)、
侵襲性肺炎球菌感染症1件(2)、梅毒3件(8)、風しん9件(157)の報告があった。

()内は2013年累積件数 ※ 累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第22週のコメント

- ＜咽頭結膜熱＞前週より増加し0.17となった。過去10年の同時期と比べると少ない。
- ＜感染性胃腸炎＞前週より減少し8.50となった。過去10年の同時期と比べると多い。
- ＜手足口病＞前週より増加し0.33となった。過去10年の同時期と比べるとほぼ例年並み。

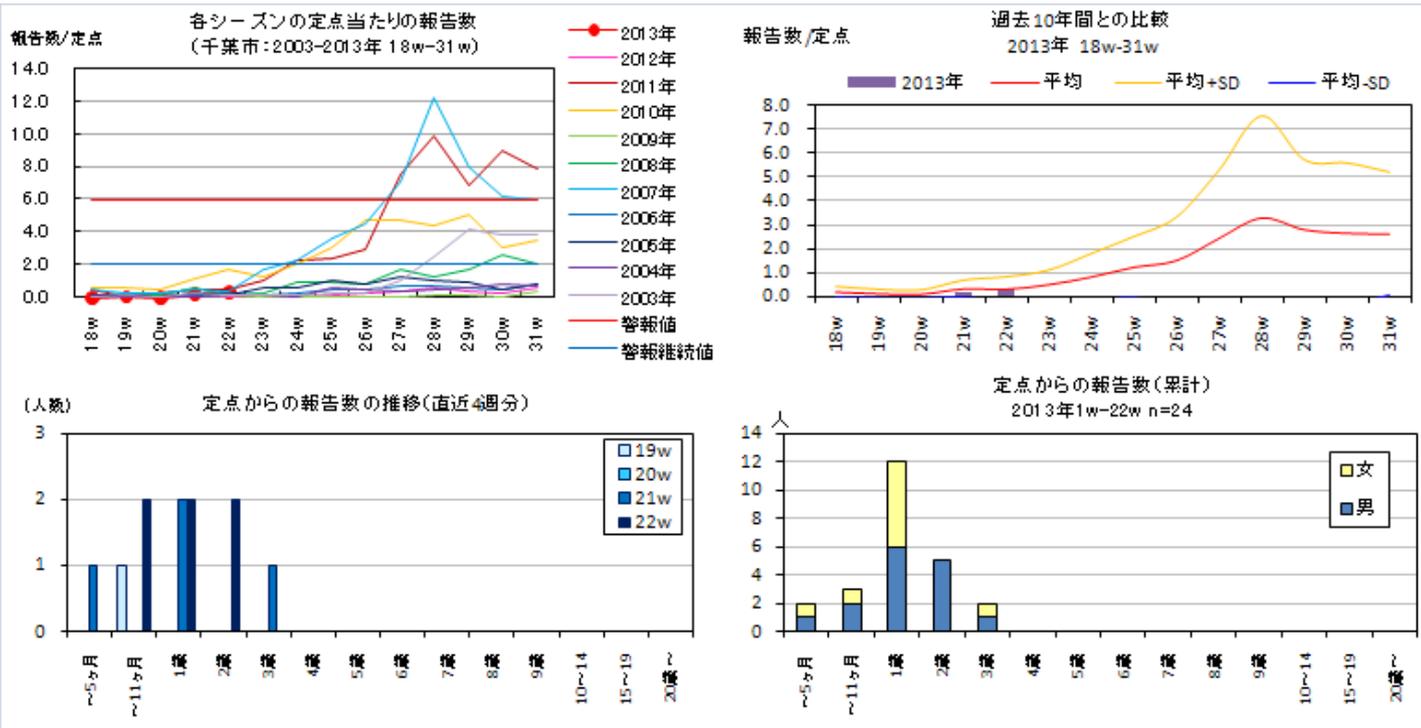
トピック

＜手足口病＞

2013年の全国レベルの第21週現在は、過去6年間の同時期と比較するとほぼ例年並みとなっています。都道府県別では、福岡県、沖縄県、島根県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると少なくなっています。千葉市の第22週は前週より増加し0.33となり、過去10年間の同時期と比べるとほぼ例年並みとなっています。区別の発生状況では、稲毛区で最も多く、同区の6ヶ月～1歳で発生がありました。

手足口病は、口腔粘膜および四肢末端に現われる水疱性の発しんを主症状とし、幼児を中心に流行する急性ウイルス性感染症です。主な原因ウイルスはコクサッキーA16(CA 16)、あるいはエンテロウイルス71(EV 71)です。感染経路は経口・飛沫・接触などで、潜伏期は3～4日が多く、主な症状が消失した後も3～4週間は糞便中にウイルスが排泄されます。まれに髄膜炎や脳炎などの合併があり、経過中の頭痛と嘔吐には注意が必要です。

これから流行シーズンを迎えるので感染防止に注意しましょう。ワクチンなどの積極的な予防方法は現在のところありません。経口・飛沫・接触感染を防ぐため、排泄物に対する注意や手洗い、うがいなどを励行しましょう。



＜咽頭結膜熱＞

2013年の全国レベルの第21週現在は、過去6年間の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では、佐賀県、鹿児島県、宮崎県の順に多く発生しています。千葉県は全国レベルよりやや多い状況となっています。千葉市の第22週は前週より増加し0.17となり、過去10年間の同時期と比べると少なめとなっています。区別の発生状況は、中央区で最多となっており、同区の3歳で発生がありました。

咽頭結膜熱は、家族内での飛沫感染、患者とのタオルの共用などによる接触感染や、プールでの集団感染がみられ、プール熱とも呼ばれます。主にアデノウイルスと呼ばれるウイルスが原因で、5～7日の潜伏期後、39℃前後の発熱で発症し、他に全身倦怠感とともに咽頭痛、目の結膜炎が主症状で、嘔吐や下痢を伴うこともあります。

本来季節による特異性がなく年間を通じて発生するものですが、過去の感染症発生動向調査からみると夏期に流行の山がみられます。通常、6月頃から徐々に増加しはじめ、7～8月にピークを形成します。

これからプール利用頻度の高くなる季節を迎えるので、予防対策として次のことに留意しましょう。

- タオルなどの共用を避ける。
- 流水や石けんによる手洗い、うがいの励行。
- プール利用後、必ずシャワーを使用し、特に洗眼やうがいをすること。
- 患者の便を介しても感染するので、排泄後の手洗いの励行と、おむつ交換などは手袋を使用するとともに後の手洗いが大切。
- 感染者との接触はできるだけ避ける。
(学校保健法の指定感染症ですので、登園・登校については医師にご相談ください。)

